

## 作業とは何で、何の役に立ち、どのような意味があるのか

吉川ひろみ

県立広島大学保健福祉学部

作業科学は、作業（occupation）の形態（form）、機能（function）、意味（meaning）を研究すると説明されている<sup>1)</sup>。この講演では、作業の形態を「作業とは何か」、機能を「何の役に立つか」、意味を「どのような意味があるのか」として話を進めたい。

### 作業とは何か

作業科学において、何が作業か、どう呼ばれるか、についての議論が展開されてきた。そして、作業はより小さな単位（活動と呼ばれることが多い）のまとまり（chunks, group, set などと表現される）であること、階層構造（levels）があること、文脈（contexts）依存性が高いことに、同意する論者が増えてきた。

#### 1. 何が作業か

作業とは、日常での活動や課題の集まりで（groups of activities and tasks of everyday life）、個人と文化によって、名付けられ、組織化され、価値と意味が与えられたものである（named, organized and given value and meaning by individuals and a culture）<sup>2,3)</sup>。作業は人がすること（doing）であるが、人がすること全てが作業ではない<sup>4,5)</sup>。人がすることが作業となるかどうかは、作業の構造や意味を考慮して判断しなければならない。

#### 2. 作業はどう呼ばれるか

作業が、より小さい単位のまとまりであると認識することで、作業をどう特定し、名付けるかが、複雑な問題となる。伝統的に作業は様々に分類されてきた<sup>5)</sup>。古くはアドルフ・マイヤー（Adolf Meyer, 1921）が、仕事、遊び、休息、睡眠という4分類を示し、このバランスが重要だとした。1970年頃になると、作業行動理論を提唱したマリー・ライリー（Mary Reilly）が仕事、遊び、レジャー、セルフケアという分類を示した。ライリーは子どもから高齢者までの作業を見通す中で、楽しむための遊びと、仕事のために必要なものと位置づけられるレジャー（余暇）とを区別した。アメリカ作業療法協会（America Occupational Therapy

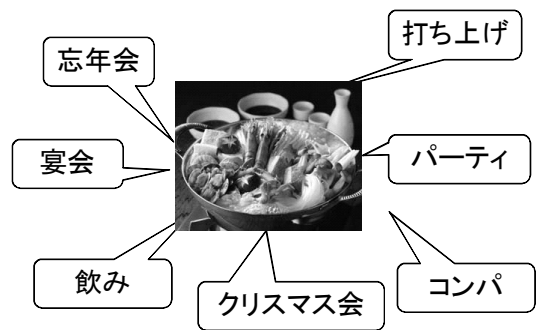


図1 作業の名前

Association, AOTA) は、日常生活活動（activities of daily living, ADL）、仕事・生産活動、遊び・レジャーを作業遂行の3領域として示し、カナダ作業療法士協会は、セルフケア、生産活動、レジャーの3領域を示した。AOTAは2002年以降には、作業の領域を、ADL, IADL（Instrumental ADL）、教育、仕事、遊び、レジャー、社会参加の7領域としている<sup>3)</sup>。作業科学の入門書を書いたPierceは、作業の主観的側面に注目して、生産的（productivity）、楽しみ（pleasure）、休息（restoration）という3つの性質を示した<sup>6)</sup>。こうした作業の分類あるいはカテゴリー化は、排他的なものではないことも指摘されている。たとえば、料理は主婦や板前にとっては仕事だが、料理好きな人は趣味としても料理を行い、遊びにもなる。おしゃれな人にとっては整容、化粧、更衣、着替え、身支度の類はセルフケアでもあり、休日のレジャーの一部でもある。

作業をどう名付けるか、という問題も興味深い。複数の友人や同僚が冬に鍋をつつくのは、忘年会、クリスマス会、コンパ、飲み会、打ち上げなど多様な名前で呼ばれる可能性がある（図1）。

#### 3. 作業はより小さな単位（活動）のまとまり

忘年会という作業では、幹事が日時を決め、店を予約し、参加者を募る（図2）。忘年会当日に集まった人たちは、席を決め、皿を回し、食べたり飲んだり、話したりする。乾杯したり、お酌をしたり、追加料理を

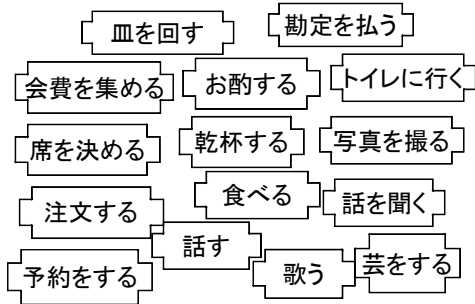


図2 作業はより小さな単位（活動）のまとめ

注文したり, 芸を披露したり, トイレに行ったりする. 気の利いた人はセクハラが起らないように席替えをしたり, 写真をとったりするかもしれない. ある作業にどんな活動が含まれるかは, その作業を行う行為者, 作業が行われる場所, 時間, 状況によって微妙に違う.

#### 4. 作業の階層構造

作業には階層構造があるとされている (図3). アン・フィッシャー (Anne Fisher) は, 運動とプロセス技能評価 (Assessment of Motor and Process Skills, AMPS) を開発する際に, 「草を見つける」, 「草に手を伸ばす」, 「草を引き抜く」, といった物と行為がセットになった目的指向的行為が, ある順番に連なって行き, これが「草を取る」という工程となり, 「庭へ出る」, 「草を取る」「袋に入れる」「ゴミ箱へ捨てる」というように最初から最後まで工程を完了すると「草取り」という課題が成し遂げられると考えた<sup>7)</sup>. キャサリン・トロンプリー (Catherin Trombly) は, 作業機能モデル (Occupational Function Model) として, 役割を支える課題があり, 課題を完了するには活動と習慣を行う必要があり, 活動や習慣が行われるためには能力や技能が必要であり, 能力や技能はより原始的なものから発達したものになる必要があり, こうした能力が発揮されるためには骨筋のような身体構造が必要であると述べた<sup>8)</sup>. ヘレン・ポラタイコ (Helen Polatajko) は, 作業の階層に関する過去の議論を整理して, 単一の運動から複合的な作業までの分類を提案した<sup>9)</sup>. (その後ポラタイコは, 2004年に提案した7分類を, 2007年にはさらに整理して5分類とした<sup>10)</sup>.

こうした作業の階層性は, 研究者によって呼び方や定義が異なっているが, 私は図4のように理解している. 宴会に出席するという作業を想定すると, 出欠の返事をしたり, 定時に集合したり, 飲食して, 会話を盛り上げるという作業をする. より小さな単位の作業には出欠の返事のためにメールを出したり, 集合に間

Tasks課題	Roles 役割	Occupational grouping 作業群 (個人や社会が名付ける作業の集合)
	Tasks課題	Occupation 作業 (意味のある活動の集合)
Steps工程	Activities and habits 活動と習慣	Activity 活動 (課題の集合)
	Abilities and skills 能力と技能	Task 課題 (行為の集合)
Actions行為	Developed capacities 発達した能力	Action 行為 (目的物への運動パターン)
	Organic substrate 構造的基盤	Movement 運動 (運動の集合)
		Voluntary movement 随意運動 (単関節の運動)

AMPS (Fisher) 作業機能モデル(Trombly) 作業遂行の分類コード (Polatajko)

図3 作業の階層構造

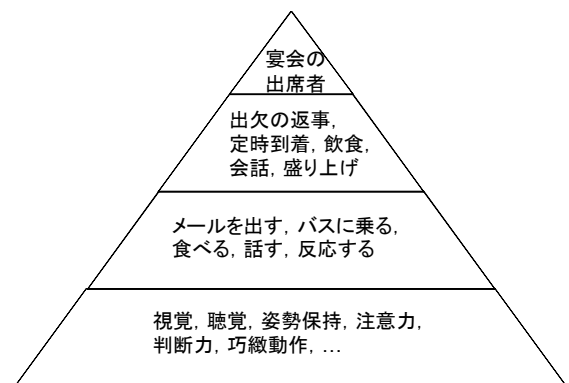


図4 作業の階層の例

に合うバスの時刻を調べ, バスに乗る, などの作業を行う. こうした作業を行うためには, 視覚, 聴覚, 手指の巧緻性などが必要となる.

#### 5. 作業の文脈依存性

作業には, その作業が行われる文脈 (状況) が必ず影響する. 「山のものは山で食べると美味しい」というのは, 同じ物を食べる場合でも, 物理的にどこで食べるかによって, 作業経験が異なることを示す. 「みんなで食べると美味しい」というのも誰と食べるかといった社会的文脈が作業の意味を変えることを示している. 「朝から納豆?」と奇異に感じる人もいるが, 「納豆は朝でしょ」と言う人もいる. これは, 地域や家族の習慣や文化が作業の感じ方に反映されていることを示す. したいことやする必要があっても, 社会にはルールや制度といった人が決めた規則がある. これは制度的文脈である. カナダ作業遂行モデルでは, 環境を物理的, 社会的, 文化的, 制度的に分けて説明している<sup>2)</sup>.

Zemke は, 場所と時間が作業に深く影響すると指摘し, 物理的な空間は人が意味のある作業を行うことで

主観的な場所になると述べている<sup>11)</sup>。また時間も同様に物理的な時間に対して、作業が行われる状況においては、主観的な時間が現れるとされる。アメリカ作業療法協会は、作業の文脈について上述の5側面に加えて、個人的文脈とバーチャルな文脈を追加した<sup>3)</sup>。個人独自の歴史や価値観が作業に独特の意味を与える場合もある。インターネット上の仮想空間で行われる作業には、バーチャルな文脈が関わる。

### 作業は何の役に立つか

作業を病気の回復や健康増進に役立てようとするのが、作業療法である。治療手段として作業をどのように有効に活用するかを検討するのは、作業療法の分野である。障害領域別、回復段階別に作業の活用の仕方が整理されてきた。

さらに、作業を通して人が成長することも知られている。子どもは遊びを通して社会性を身につけたり、運動機能や認知機能が発達する。発達を促進するような遊びが作業療法士によって提案されることもある。

作業は環境を変化させることもある。道やダムを造る土木作業は、人間が住む地域環境を形成する。歴史的建造物や古代の美術工芸品なども、人が作業を行った跡である。

### 作業には、どのような意味があるのか

治療手段としての作業、発達を促進するための作業、生活環境整備のための作業など、作業は別の目的を達成するための手段や媒介 (means) となる場合がある。一方、作業は手段ではなく、目的 (end) となる場合もある。子どもは社会性を身に付ける手段として「ごっこ遊び」をするだけでなく、その遊びそのものを楽しむ。成人するまで生きることができない不治の病の子どもにとっても遊ぶという作業が重要なのは、社会性を学習するためというよりも、遊ぶという作業そのものが目的だからである。

佐藤剛記念講演をするという私の作業は、大学院生のリクルート、パワーポイントを使ったプレゼンテーションの上達、といった手段としての意味もあるが、佐藤剛先生との絆を感じ、作業科学という学問を今ここでつかもうとするという目的としての意味もある。この講演を通して私が手にした達成感、感謝、喜び、希望は、この作業がここで終わっても全く悔いが残らない目的であることを示している。

### おわりに

1919年にDuntonは、「作業は食べ物や飲み物のように生きるに必要なものである。すべての人は身体的・精神的作業をすべきである (That occupation is as necessary to life as food and drink. That every human being should have both physical and mental occupation)」と述べた<sup>2)</sup>。これは、人間にとっての作業の重要性を強調した言葉である。この講演の準備中に、中西正和先生 (慶応義塾大学教授) が作成していたという歴史データベースのウェブサイトを見つけた<sup>12)</sup>。そこには、次のような記載があった。

「・・・通夜、告別式は・・・しめやかにとりおこなわれましたのでご報告申し上げます。先生は、ご病床にあっても亡くなられる10日ほど前まで毎日のできごとをノートパソコンに入力されておられました。また、お見舞いに伺ったときも歴史データの入力のご苦勞や問題点などを楽しそうに話していらっしやいました。歴史データベースの前回の改訂以降、皆様にご報告いただいた新しい情報やご指摘いただいたミスに対する修正も先生のノートパソコンの中には反映されているものと思われま。しばらく落ち着きましたら、これらの新しく追加・修正された情報も『歴史データベース on the Web』に公開させていただけるようご遺族にお願いしたいと思います・・・」

中西先生は情報工学のプログラミングが専門だが、趣味で歴史年表を作成していたようである。57歳で亡くなられた4か月後に「中西正和歴史年表」(CD-ROM) が出版されている。ウェブ上の「歴史データベース on the Web」には、7万件以上のデータがあり、宇宙誕生から2000年11月まで、7万6千件にのぼるできごとが収録されているそうである。特定の分野ごとの歴史、たとえば軍事史、音楽史、野球史など、あるいは特定の人物・事柄に関する歴史なども検索機能を使って調べられる。一度も会ったことのない中西先生が残した作業の跡 (図5) から、中西先生の人柄や仕事ぶりが滲みでている気がして、胸が熱くなる。

佐藤剛先生も、感覚統合を語り、作業科学を紹介し、私が興味を持ち始めたカナダ作業遂行測定 (Canadian Occupational Performance Measure, COPM) や AMPS に取り組むことを励ましてくださった。人が作業的存在として個性を発揮できることが、愛おしく尊く感じられる。

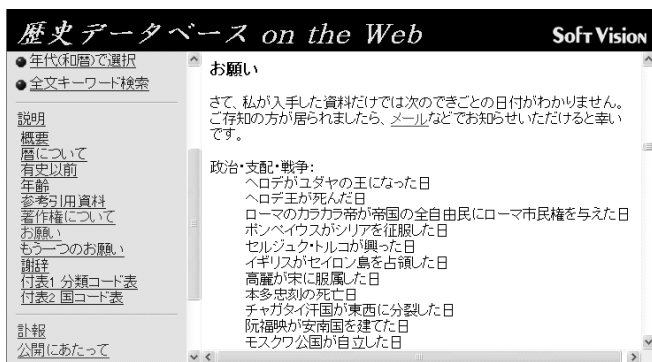


図5 中西先生の作業の跡

## 文献

- 1) Larson, E., Wood, W., and Clark, F.: Occupational science: Building the science and practice of occupation through an academic discipline. In Crepeau, EB, Cohn, ES, and Schell, BAB Ed, Willard & Spackman's Occupational Therapy 10th edition, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2003, pp. 15-26.
- 2) Canadian Association of Occupational Therapists: Enabling Occupation: A Perspective of Occupational Therapy. CAOT ACE, Ottawa, 1997. カナダ作業療法士協会著 (吉川ひろみ監訳): 作業療法の視点—作業ができるということ. 大学教育出版. 2000.
- 3) American Occupational Therapy Association: Occupational therapy practice framework: domain and process. American Journal of Occupational Therapy 56, 609-639, 2002.
- 4) Occupational Terminology. Journal of Occupational Science 8: 38-41, 2001
- 5) 吉川ひろみ: 作業療法における「作業」の変遷. OT ジャーナル 39(12), 1160-1166, 2005.
- 6) Pierce D: Occupation by Design. F.A.Davis, Philadelphia, 2003.
- 7) Fisher A: Uniting practice and theory in an occupational framework. American Journal of Occupational Therapy 52, 509-521, 1998. (齋藤さわ子: 学びたい世界の作業療法. OT ジャーナル 37, 410-414, 2003)
- 8) Trombly CA: Occupation; purposefulness and meaningfulness as therapeutic mechanisms. American Journal of Occupational Therapy 49, 960-972, 1995. (吉川ひろみ: 学びたい世界の作業療法. OT ジャーナル 38:144-147, 2004)
- 9) Polatajko H, et al: Meaning the responsibility that comes with the privilege: Introducing a taxonomic code for understanding occupation. Can J Occup Ther 71: 261-264, 2004
- 10) Polatajko HJ, Davis J, Stewart D, et al: Specifying the domain of concern: Occupation as core. Townsend E & Polatajko HJ, Enabling Occupation II: Advancing an Occupational Therapy Vision for Health, Well-being, & Justice Through Occupation. CAOT Publications ACE, Ottawa, 2007, pp.13-36
- 11) Zemke R: The 2004 Eleanor Clarke Slagle Lecture: Time, Space, and the Kaleidoscopes of Occupation. Amer J Occup Ther 58 ( 6), 608-620, 2004
- 12) 歴史データベース on the Web. <http://macao.softvision.co.jp/dbpwww/> (参照日: 2010年8月25日)

本稿は、2005年の講演時の資料を基に、書いたものである。